

# 域学連携10年の批評と、今後10年を見据えた提言

大学や企業と共に歩む地域団体の活動に関する検討

域学連携事業は

地域に何をもたらしたか

Discussion



# 発表内容

1. ワーキング検討プロセスのご紹介
2. 域学連携事業の地域評価
3. 域学連携事業のライフサイクルからみた受け入れ時の重要検討事項
4. 今後の域学連携事業への提言

100th

# 1.ワーキング検討プロセスのご紹介

域学連携事業に参画している地域（町内会・地域団体）や地元企業、自治体関係者とともに3日間のワーキングを実施。

WG1日目



ディスカッションワーク前の事前説明

関わった域学連携事業の取り組み  
課題感の事前アンケートの実施

WG2日目



域学連携事業の地域評価  
ディスカッションワークの実施

ディスカッションワーク後の  
意識調査(アンケート)の実施

WG3日目



ディスカッションワークのとりまとめ  
結果の共有

ワーキング検討結果方針の確認

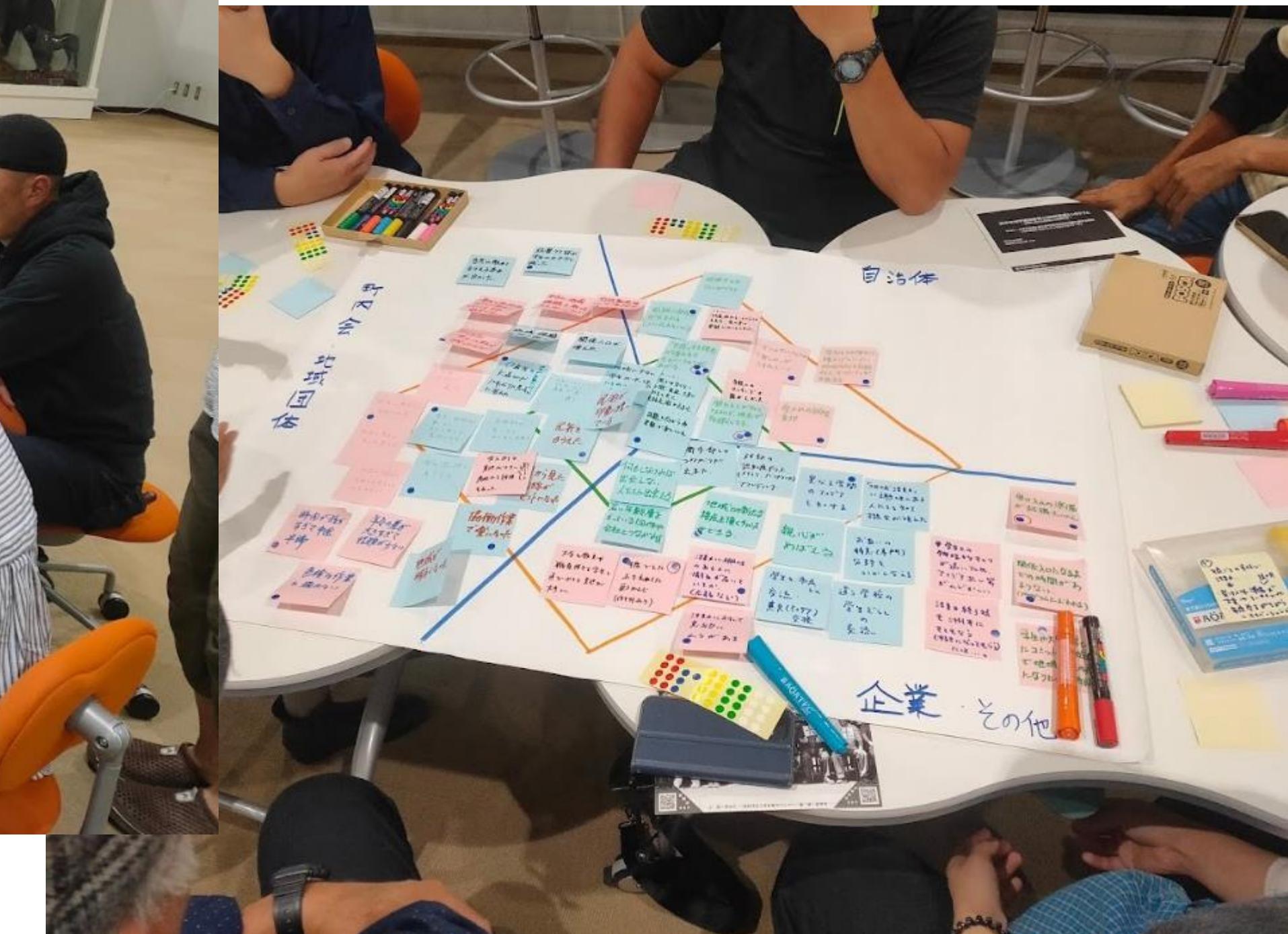
# 1.ワーキング検討プロセスのご紹介

WG2日目のディスカッションワークでは、以下の2点の検討軸で進んでいきました。

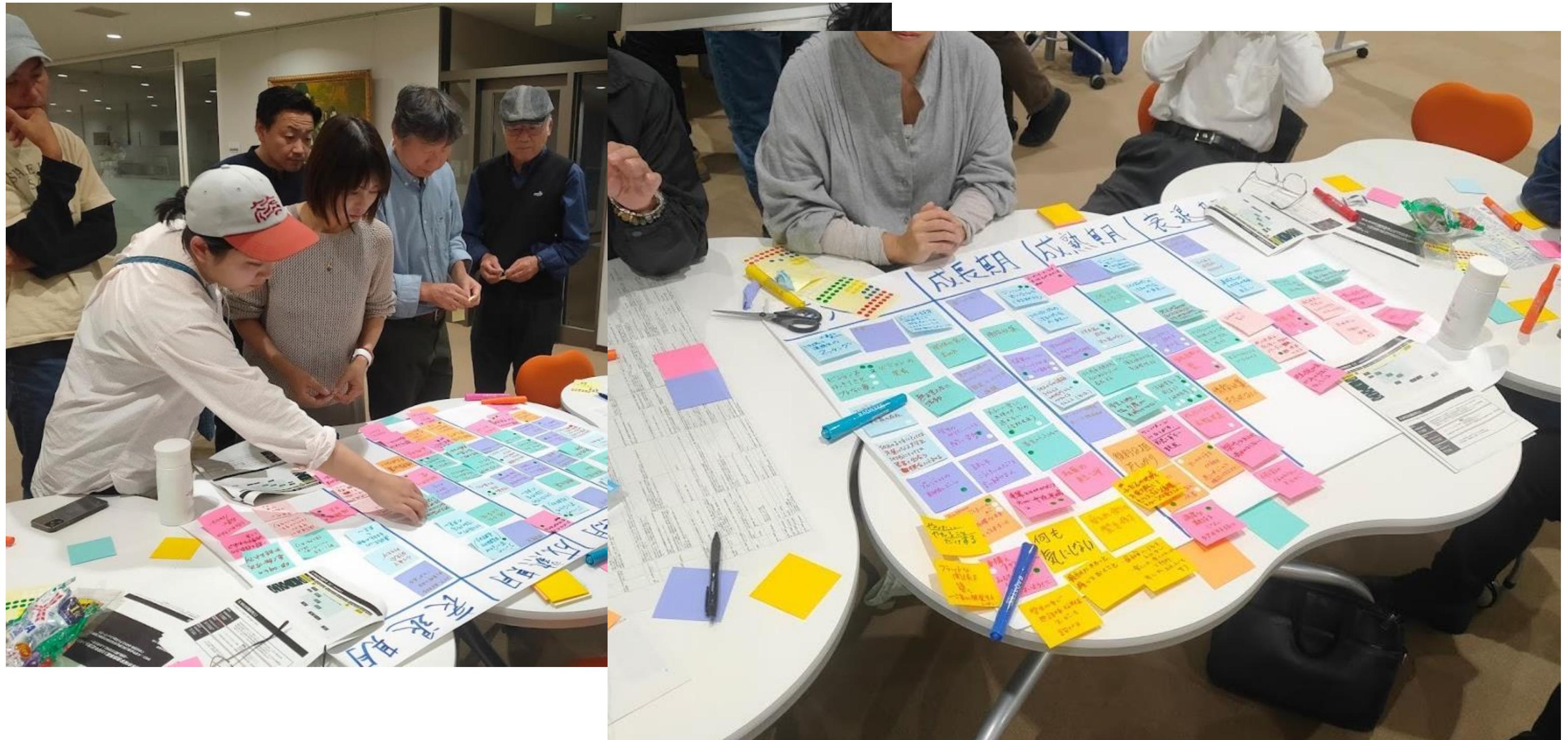
**域学連携事業によって  
得られた地域づくりの成果  
問題や課題・反省点は何か**

**域学連携事業で円滑な  
活動を支えるために必要な  
地域側の受け入れ要件は何か**

# 1.ワーキング検討プロセスのご紹介



# 1.ワーキング検討プロセスのご紹介

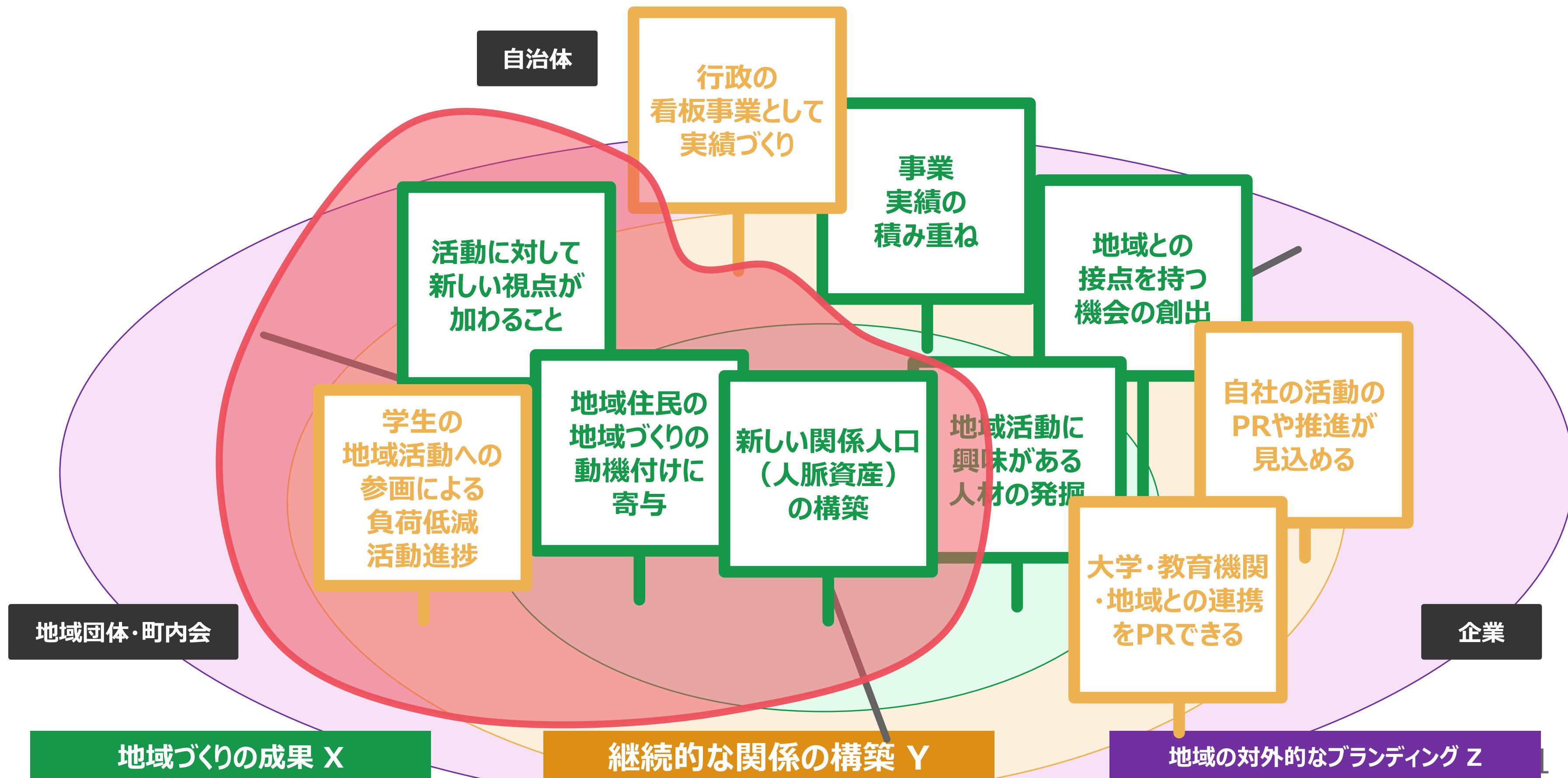


## 2. 域学連携事業の地域評価：ワーキング結果

地域側が感じる域学連携の成果、ポジティブな側面は以下のような内容に共感が集まりました。



## 2.域学連携事業の地域評価：ワーキング結果



## 2.域学連携事業の地域評価：得られたものは何か

情緒的価値  
= 前を向く燃料

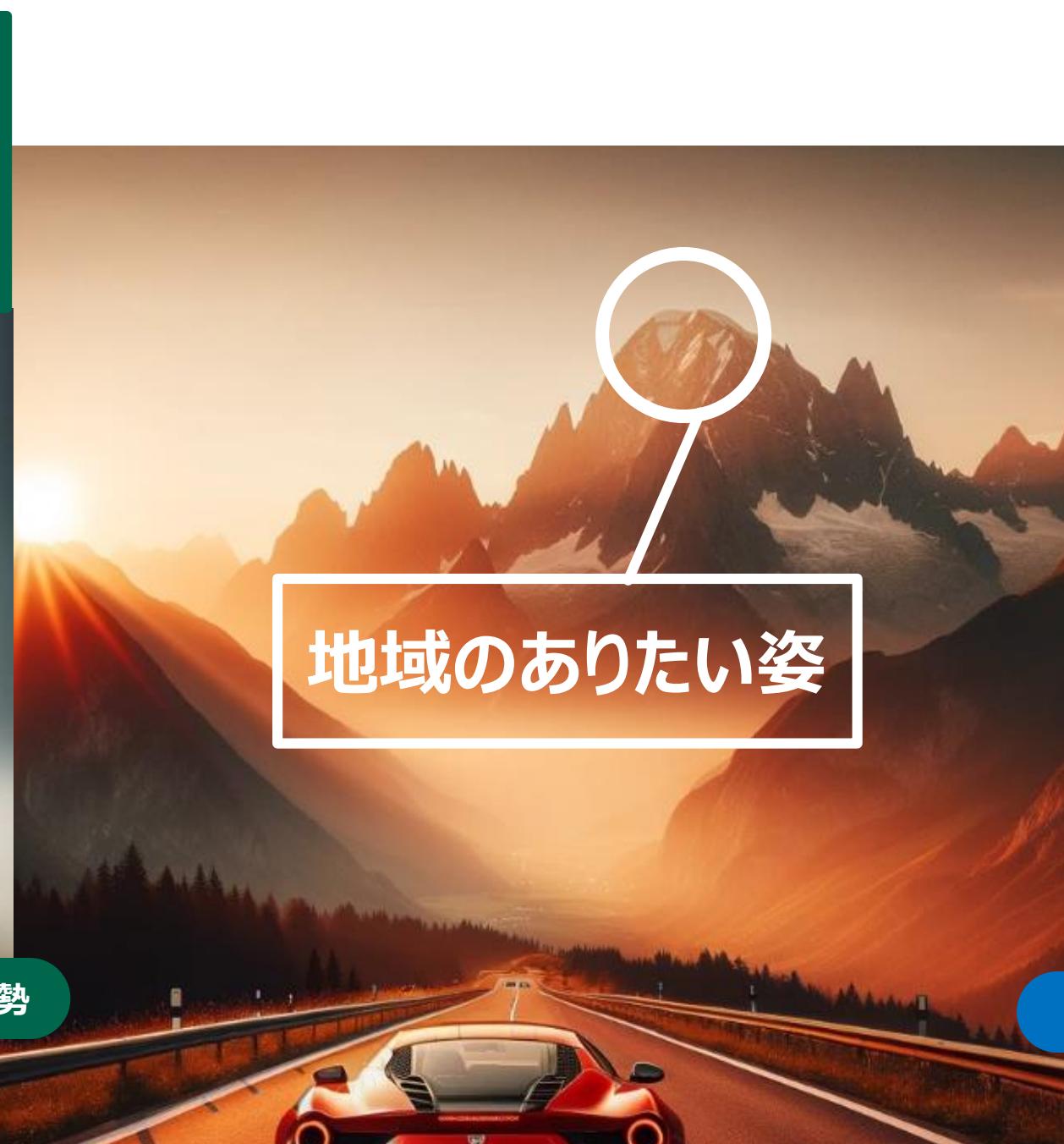


学生からの刺激

地域への誇り

変化・挑戦の姿勢

域学連携事業  
= 車(移動手段)



機能的価値  
= 振り返って見える景色  
(達成したゴール/構築できたモノコト)



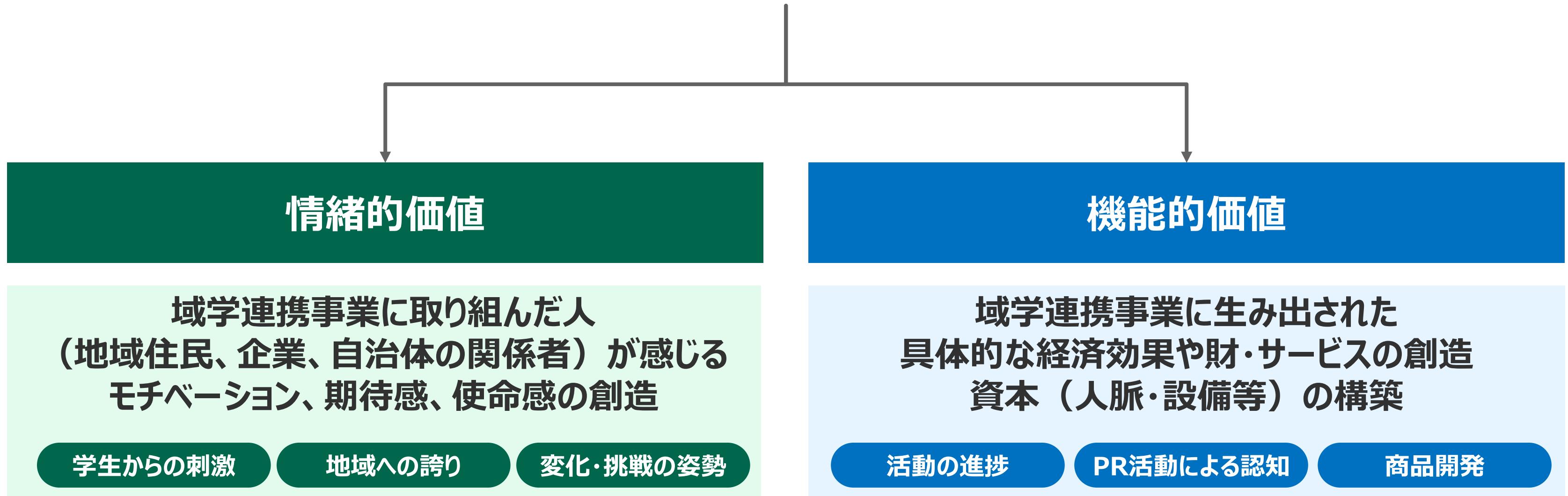
活動の進捗

PR活動による認知

商品開発

## 2. 域学連携事業の地域評価：得られたものは何か

**前提：域学連携事業の成果 = 測りにくいものではある**



## 2.域学連携事業の地域評価：得られたものの具体例

情緒的価値  
=前を向く燃料



淡路ロングトレイル



事業  
手段)

機能的価値  
=振り返って見える景色  
(達成したゴール/構築できたモノコト)

塔下新池ため池ソーラー発電所

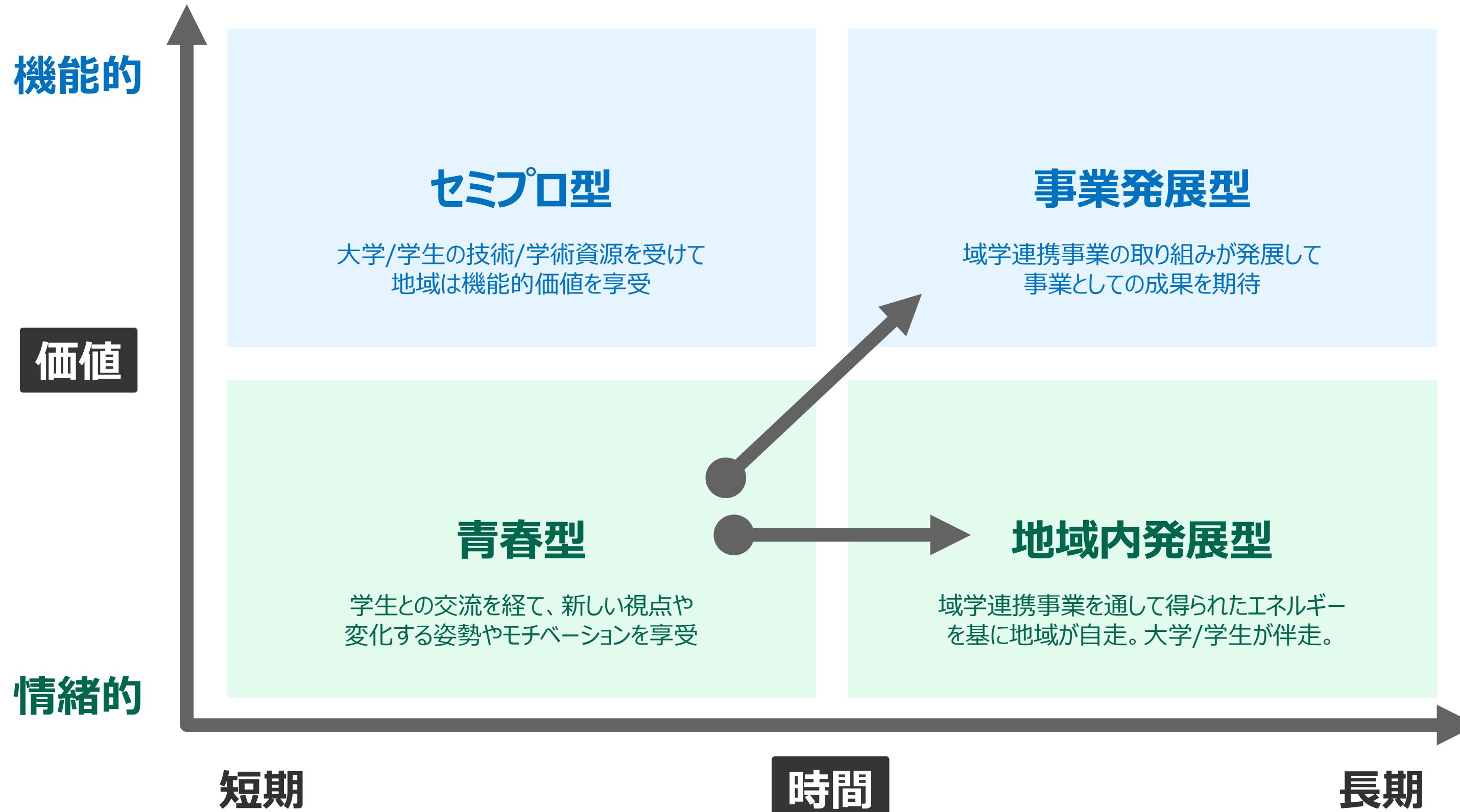
地域のありたい姿



鮎原米・米ワッフルの販売実績



## 2. 域学連携事業の地域評価：時間軸と地域が得る価値の関係性



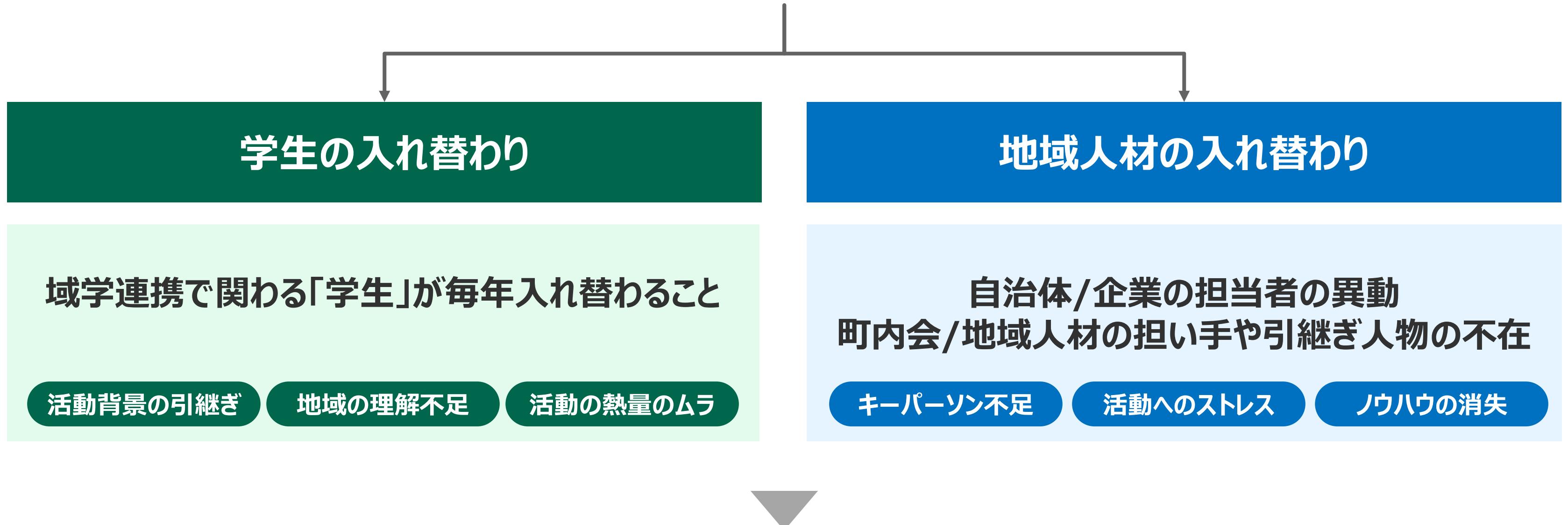
## 2. 域学連携事業の地域評価：浮き彫りになった課題（ネガティブ評価）

地域側が感じる域学連携の課題、ネガティブな評価には以下のような内容に共感が集まりました。



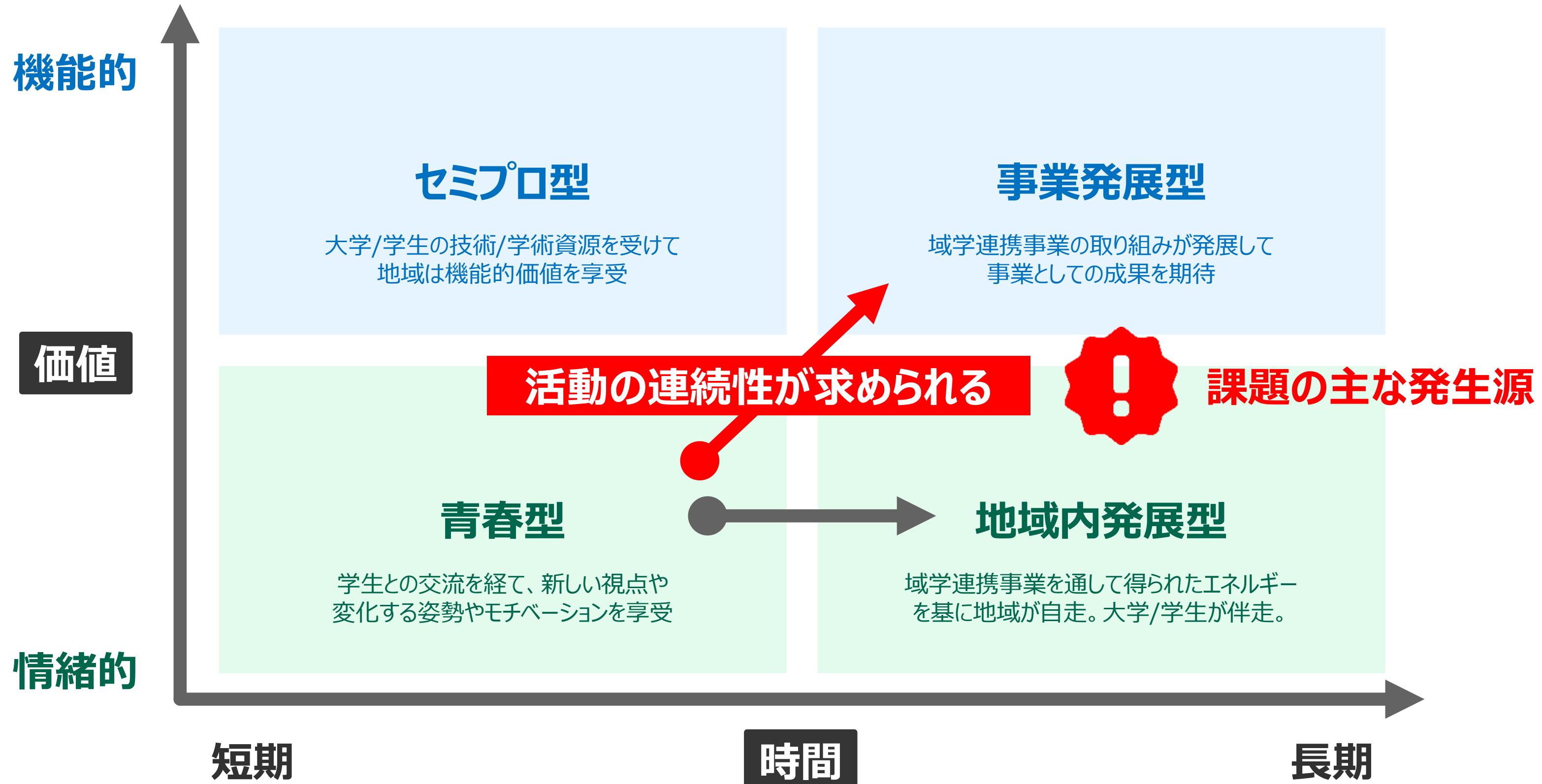
## 2. 域学連携事業の地域評価：浮き彫りになった課題（ネガティブ評価）

### 継続的な活動を支える仕組みの不足



仕組み不足の状況でも、洲本市の域学連携事業が継続している背景には  
強力な先導者の存在、寛容な地域住民の存在、臨機応変で柔軟な対応を受け入れる関係性のある雰囲気

## 2.域学連携事業の地域評価：浮き彫りになった課題（ネガティブ評価）



### 3.域学連携事業のライフサイクルからみた受け入れ時の重要検討事項

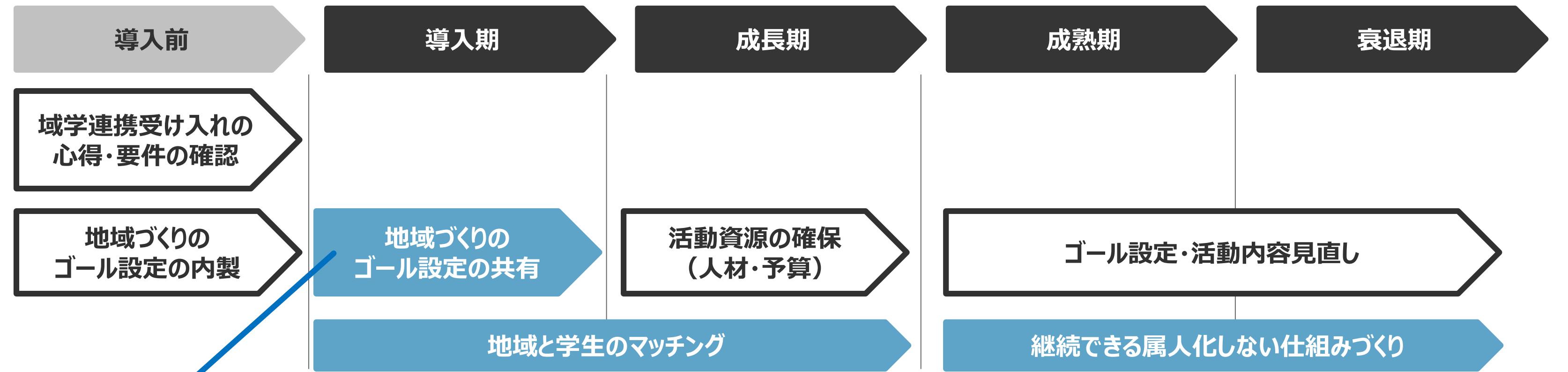
域学連携事業のライフサイクルの視点から、地域側が考える重要な検討事項には以下のような内容に共感が集まりました。



### 3.域学連携事業のライフサイクルからみた受け入れ時の重要検討事項

域学連携事業のライフサイクルを意識したワークでは、導入期には地域と大学など、関係者のマッチングが重要との傾向が明らかになりました。

凡例：重要検討事項



域学連携事業  
のスタンス

#### 未来課題思考

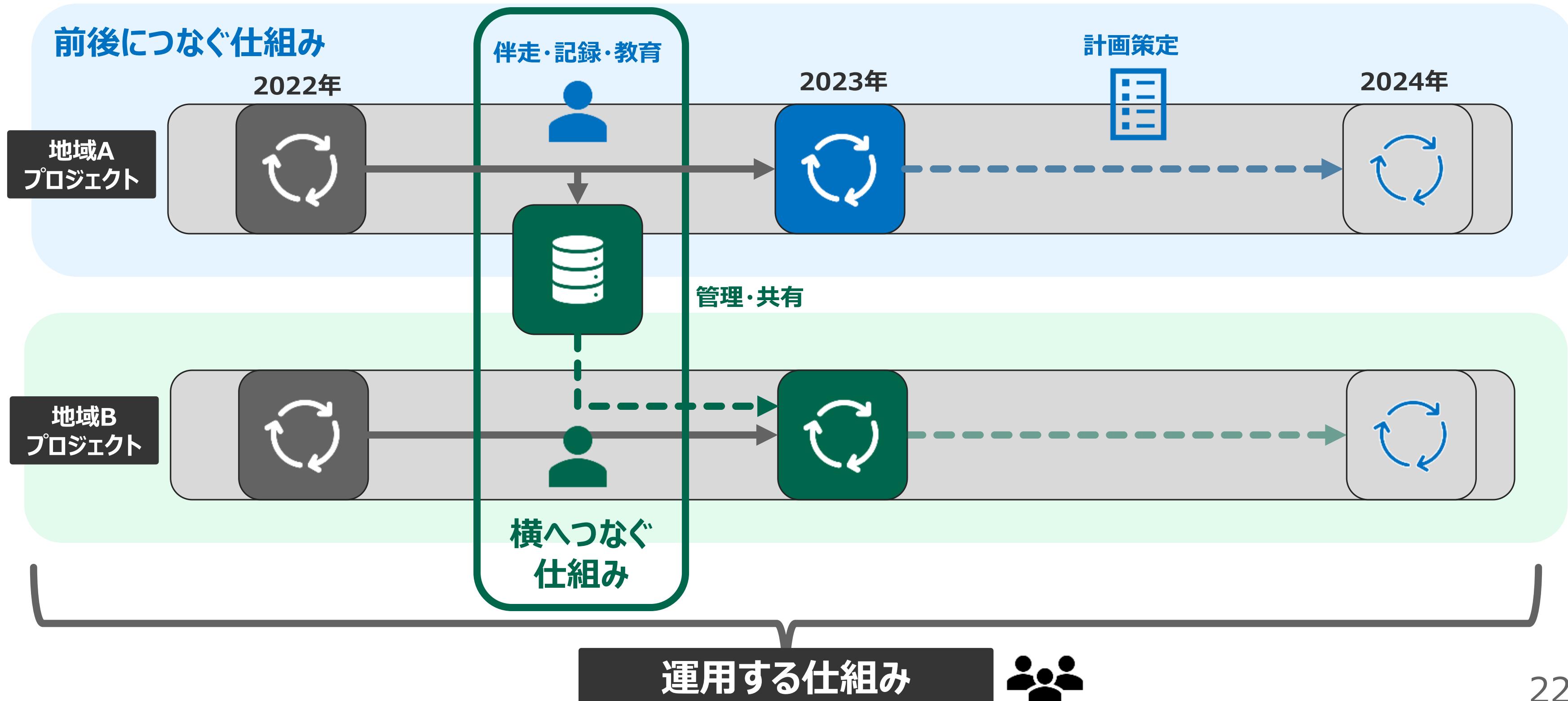
- ・地域がなりたい姿を考えていくことに期待感をもって取り組める
- ・地域がなりたい姿に必要なことにアプローチする

#### 現在課題思考

- ・未来課題思考に比べてやや消極的。
- ・目の前の課題に対して解決策検討になりがち。

## 4. 今後の域学連携事業への提言

ワーキングの中で浮き彫りになった課題や、域学連携事業で地域に求められる要件・整えるべき工夫の検討結果を基に、今後の事業推進への地域視点の提言を下記のイメージで示します。



## 4. 今後の域学連携事業への提言

浮き彫りになった課題から求めらえる施策の具体的なメニュー案は以下の通り。

3つの施策案	メニュー案	詳細
前後をつなぐ仕組み	・活動の引継ぎ資料の作成	・活動の内容や関係者、活動経緯や成果物が分かるようにアーカイブとなる資料を取りまとめる（フォーマット提供や資料作成支援）
	・学生への地域活動前教育（コミュニケーションの場）	・域学連携に関わる学生に対して、アーカイブ資料を基にした事前教育の支援
	・活動の伴走支援	・マッチングやゴール設計、活動中の伴走支援
左右をつなぐ仕組み	・他活動のノウハウの共有	・他の活動のアーカイブなどを集約・共有できるプラットフォーム的な場所
	・域学連携受入前の地域間教育	・新規に域学連携を取り掛かる地域や団体（企業）向けに心得的なものを共有する教育機会の提供（フォーラムやコミュニティのような場所）
運用する仕組み	・各プロジェクトのアーカイブ資料の管理・運用	・各プロジェクトの活動記録や暗黙知の言語化支援を行い、管理運用する役割
	・伴走支援者の割り当て	・伴走支援をする者の割り当てや支援者のサポート
	・地域おこし協力隊の活用	・地域おこし協力地が伴走者として機能
	・地域活性化企業人	・地域おこし協力隊OBOGになって伴走者へ

